

「事業名：“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト」2020年度補助事業の実績・成果

近畿大学 連携市町村：川俣町

連携市町村との協定締結日：平成29年5月16日 現地拠点：伊達郡川俣町役場西分庁舎

事業のポイント

「マイナスからゼロへ」という被災からの再生支援と「ゼロからプラスへ」という復興支援の2本の柱を基本とし、川俣町民の意見を取り入れつつ、学生の知を組織的に活用した復興支援を実行し、一つの復興モデルを構築する。

今年度の活動実績

川俣町復興支援プロジェクト（農業振興・特産品開発）

・川俣町関係者（役場、農業振興公社、食品企業等）との共同の商品開発（ブルーベリージェラート、アンスリウムチーズケーキ、川俣シャモになる卵のジェラート等）や川俣シャモ販売促進策の提案、道の駅での販売手法の提案、町内食品企業間でのコラボ商品開発の提案、復興知事業・5大学連携シンポジウム（第1回・第2回）の企画・運営等を行った。

川俣町復興支援プロジェクト（集落復興）

・昨年から引き続きサイクルツーリズムで街を活性化させることを目標に取り組んだ。拠点となる「おじま交流館」の利用者激減により導入はできなかったが、自転車購入、広報用のホームページ、ハイブリッドコースマップを作成し事業準備を整えた。また、地区の方々とのオンライン懇談会を行い、来年度以降の事業案の模索した。

川俣町復興支援プロジェクト（近大初・川俣ものづくりプロジェクト）

・SDGsについてのわかりやすい冊子800冊制作し、川俣町内小学校3年生から6年生全員に配布する。これをもとに富田小学校4年生と川俣南小学校5年生にSDGsをより身近に感じ、自宅や学校でも実践していけることを理解してもらえるオンライン授業を学生主体で実施した。
・川俣高校にてSDGsものづくりオンライン授業を実施し、川俣町内ものづくり企業4社へ訪問し工場見学を行い、ものづくり産業振興に関して懇談を行った。

今年度の成果

川俣町産業振興プロジェクト（農業振興・特産品開発）

・「かわまたジェラート ブルーベリーミックス」は2020年11月から販売を開始した。川俣シャモになる卵のジェラートやアンスリウムチーズケーキは2021年度内の販売開始を目指している。あわせて、川俣町内でのフィールドワーク等を通じて、川俣町関係者との交流を深めた。

川俣町産業振興プロジェクト（集落復興）

・サイクルツーリズム事業で利用するハイブリッドコースマップを3種作成した。今後の活動でコースマップをより多様化する予定である。また、「おじまふるさと交流館のウェブサイト」において、昨年から交流館側の要望を聞きながら作成していたものが完成し、早速ブログで情報発信が開始されている。来年度の案として、秋祭りへの参加と活性化、地域おこし協力隊や移住促進広報、「福島のいま」を大阪から発信するなど合意した。

川俣町復興支援プロジェクト（近大初・川俣ものづくりプロジェクト）

・SDGsをわかりやすく理解してもらえるよう冊子800冊を作成し、これをもとに富田小学校4年生と川俣南小学校5年生に『福島・川俣町からSDGsを考える』と題したオンライン授業を学生主体で行うことにより、世界の現状を知り、自分にできる機会づくりを与えた。
・『福島・川俣町からコロナ禍におけるSDGsものづくりを考える』と題し、川俣高校の生徒へコロナ禍から学ぶSDGsモノづくり：笑顔の見える近大マスクの開発についてオンライン授業を行い、産業や文化の振興を考える機会を与えた。
・川俣町内ものづくり企業4社へ訪問し工場見学を行い、ものづくり産業振興に関して懇談を行い今後の課題を探る機会となった。
・「“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」の1つとして、近大ものづくり工房が主体となり理工学部と文芸学部および東大阪市のものづくり企業が協力して開発した『近大マスク』を川俣町内の施設で使用頂き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に役立ててもらえるよう、川俣町役場へ3,000個贈呈した。



かわまたジェラート
ブルーベリーミックス



アンスリウムチーズ
ケーキ（試作品）



コースマップ



サイクルツーリズム
推進チーム



近大マスク



近大マスク贈呈式